

徳島藩における組頭庄屋等関係文書について —東川田村原田家文書の紹介と翻刻—

小部さくら¹・松永友和¹

[Sakura Kobe¹ and Tomokazu Matsunaga¹: Documents related to village headmen and others of the Tokushima Domain—Introduction and transcription of Harada family documents in Higashikawata Village—]

キーワード：徳島藩 小高取 一領一疋 郡付浪人 組頭庄屋 身居

はじめに

本稿は、徳島県立博物館が所蔵する組頭庄屋等関係文書、具体的には原田家旧蔵の古文書「南北小高取 同格 三領一疋 老領一疋 浪人 郡付浪人 与頭庄屋名簿」を紹介・翻刻するものである。もともと、上記の古文書は原田家に収蔵されていたが、令和3年(2021)1月に、東川田村分間絵図など12点の資料とともに徳島県立博物館に寄贈された。なお、資料には「与頭庄屋」と記されることがあるが、以下では資料の引用を除いて「組頭庄屋」と表記する。

以下、当該文書について簡単な解説を加える。

解題

1. 東川田村と原田家の概要

資料について記す前に、東川田村(現、吉野川市山川町)と原田家について紹介しておきたい。なお、以下の記述については、平凡社地方資料センター編(2000:267-268)と山川町史編集委員会編(1987)に依拠している。

東川田村は、阿波国麻植郡おえぐんに属し、北は瀬詰村せづめむら、東は種野山、南は川田山、西は西川田村に接した村である。東川田村と西川田村、川田山の関係については、天文年間(1532~1555)以降1村として把握されていたが、天正17年(1589)に川田村と川田山に分かれ、その後川田村が東西2村に分かれた。川田村が東西に分村した年代は不明であるが、慶安2年(1649)以前には分村したとされる。

天正17年の川田村検地帳によると石高は1,443石余、正保国絵図では1,417石余であった。「旧高旧領取調帳」

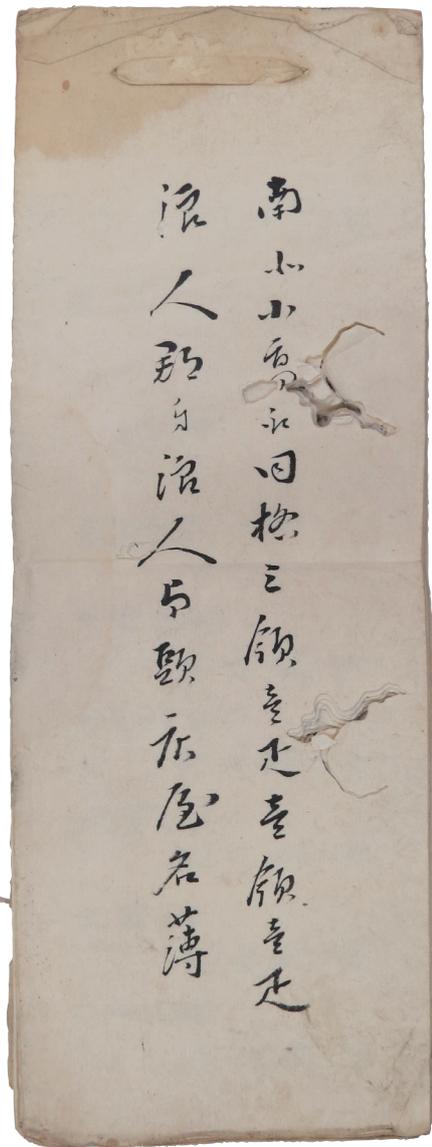


図1. 表紙

2024年12月11日受付, 1月10日受理.

¹ 徳島県立博物館, 〒770-8070 徳島市八万町 文化の森総合公園. Tokushima Prefectural Museum, Bunka-no-Mori Park, Hachiman-cho, Tokushima 770-8070, Japan

においては西川田村と合わせて川田村として扱われ、531石余が蔵入地（藩直轄地）、1,101石余が長谷川近江など12名の知行地（家臣に与えられた土地）であった。東川田村の農産物としては、米や麦、粟、大豆等があげられるが、なかでも葉藍の生産が盛んであった。

次に、原田家について述べる。原田家は東川田村において最も有力な家であり、藍作と運送業を家業としていたと考えられる。もとは頭入百姓（蜂須賀家の家臣に年貢を納めた百姓）であったが、寛政3年（1791）に御蔵百姓（藩の御蔵に年貢を納めた百姓）となっている。天保2年（1831）に東川田村の郡付浪人、天保7年には小高取となっている（郡付浪人や小高取については後述）。

歴代原田家当主の中でも、本資料にも名前が記される原田辰次郎は、地域において突出した存在であったようである。文政11年（1828）、川田川下流の土手普請を提唱するとともに普請費を寄付している。嘉永元年（1848）に新用水の発起人・会計方となり藩から褒賞を受け、同5年には藩に対して冥加金592両を納めるなどしている。

2. 資料の概要

次に、資料の概要について述べる。体裁は冊子（横帳）で、表紙と本文墨付14丁からなり、表紙には「南北小高取 同格 三領壹疋 壹領壹疋 浪人 郡付浪人 与頭庄屋 名簿」との墨書がある。

年代については、資料に記載されていない。ただし、本資料において名前があげられている小高取のうち、大野島村（現、阿波市市場町大野島）の須見次郎太夫は、市場町史編纂委員会編（1996）によると、嘉永2年（1849）に小高取となっている。また、大利村（現、三好市池田町大利）の組頭庄屋は、本資料では大西吉郎兵衛と表記されている。池田町史編纂委員会編（1983）によると、大西吉郎兵衛は弘化年間（1844～1848）頃に組頭庄屋を務め、嘉永3年には内田武左衛門と交代したとされる。以上を勘案すると、本資料は嘉永2～3年頃に作成されたものと考えられる。

3. 資料の内容

次に、資料の内容について述べる。資料はおおきく次の①～④により構成されている。①は「南北小高取 同格 并惣領共」、②は「北方三領壹疋 壹領壹疋共」、③は「南北浪人 郡付浪人共」、④は「南北与頭庄屋共」である。このうち、①には、小高取（84人）、小高取格（26人）、小高取惣領（31人）、小高取格惣領（11人）、小高取小家（1人）の名前が居村とともに記載されている。同様に、②には、一領一疋（6人）と三領一疋（1人）、③には郡付浪人（35人）

と浪人（1人）、④には組頭庄屋（11人）と組頭庄屋並（1人）の名前および居村が記載されている。つまり、当該資料は阿波国内の小高取、一領一疋、郡付浪人、組頭庄屋など、身居（阿波では身分を「身居」と記すことが多い。「身分之居」の意とされ、家格を示している）ごとに、総人数247人の名前と居村が記された名簿であるといえる。

ここで、高田豊輝編（2001）に依拠しながら、先述した身居について説明を加えておこう。①の小高取とは、宝暦3年（1753）以降、徳島藩に1,700両程度の献金をした百姓や、一揆の防止などの功績のある庄屋等に与えられた身居である。待遇としては居屋敷高若干を与えられ（屋敷と屋敷廻りの一部が年貢免除となる事）、壹家（本家）・小家・下人までが夫役御免となり、壹家・小家ともに苗字帯刀を許されている。

小高取に準ずる身居に小高取格がいる。小高取とのちがいは、小高取格は居屋敷高が無いことであるが、その他はほぼ小高取と同様の待遇であった。

なお、①「南北小高取 同格 并惣領共」の「南北」とは、「南方」と「北方」を指すと考えられる。「南方」と「北方」は阿波国の地域区分であり、南方は勝浦・那賀・海部郡を、北方は南方の北側の諸郡、すなわち名東・名西・板野・麻植・阿波・美馬・三好郡を指している。

次に、②の一領一疋について述べる。一領一疋は、武士と百姓身分の中間に位置する身居（身分的中間層）である。近世初期に帰納していた武士の子孫を浪人待遇の予備兵としたのが、そのはじまりとされる。延宝年間（1673～1681）にそれらの家を一領一疋と称する身居にしたという。戦時は具足を着し騎馬持槍の軍役に準ずる武士待遇であった。平時は浪人待遇で、藩主や藩役人、幕府役人が出張してきた際に出仕したという。壹家・小家ともに苗字帯刀が許され、壹家・小家・下人が夫役免除とされた。幕末になると、500両程度を藩に献金した百姓に一領一疋の身居が与えられた。

なお、三領一疋は一領一疋よりも軍役が重く（具足一騎と若党二人とされる）、一領一疋よりも上位であった。ただし、三領一疋はきわめて少数であったようで、本資料にも東中富村の木内孫之丞の1名のみがあげられている。

③の郡付浪人は、②の一領一疋と同様、武士と百姓身分の中間に位置する身居（身分的中間層）である。郡奉行の下に位置する浪人の意である。もとは主家を失った陪臣や他国から来た浪人のうち、医者などの職を持つ者に与えられた身居であった。享和年間（1801～1804）頃からは、藩に700両ほどの献金をした者にも与えられるようになる。壹家・小家ともに苗字帯刀が許され、壹家・小家・下人が夫役免除とされた。なお、郡付浪人は明治3年（1870）



図2. 「南北小高取同格并惣領共」の書き出し

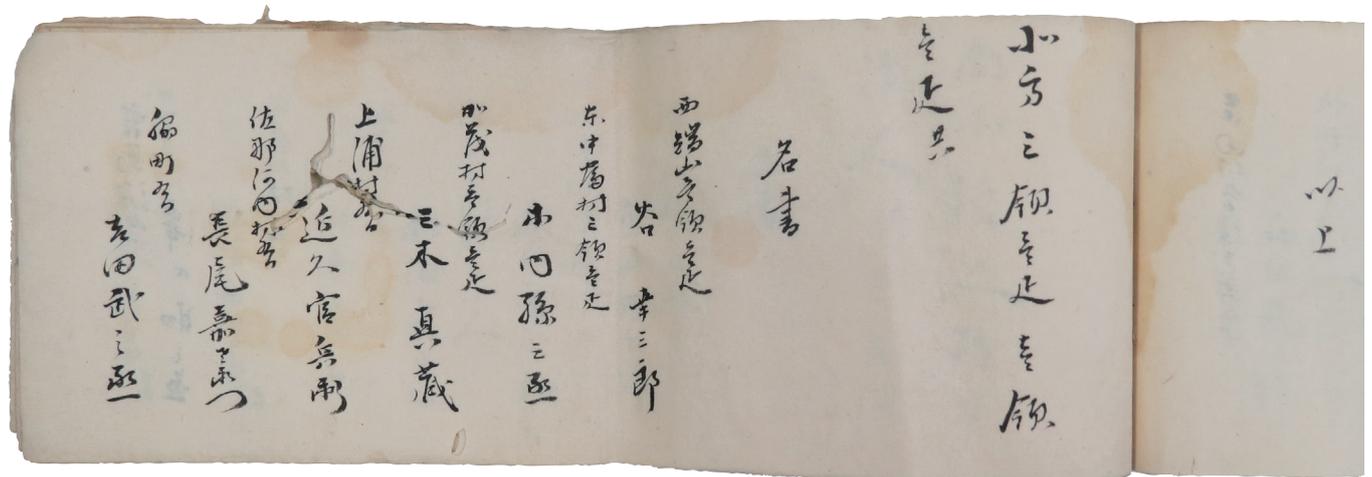


図3. 「北方三領一正老領一正共」の書き出し

になると郡付卒とされ、明治5年には平民となった。

④の組頭庄屋について、徳島藩では10カ村程度を統括する者に組頭庄屋と呼ばれる村役人が置かれた。基本的に各村には庄屋がおり村政を担ったが、村や庄屋レベルで解決できない民事訴訟は組頭庄屋が担当した。任免は郡奉行（江戸時代後期は郡代）が行った。庄屋と同様、壱家および同居の小家と下人が夫役免除とされた他、組頭庄屋は延宝4年（1676）からは御目見が許され、明和3年（1766）以降は苗字が無い者も勤務中は苗字帯刀が許されている。明治4年3月に廃止され、里長がこれに代わった。

なお、本資料においては組頭庄屋であったとしても小高取であれば「小高取」として表記されている。

最後に、これら身居の序列（格）についてふれておきたい。谷家文書の享保9年（1724）「覚書」によれば、藩主拜謁の席順が小高取、一領一正、惣庄屋（組頭庄屋カ）の順に決められていた（徳島県立文書館編、2000）。つまり、

序列は高い順に、小高取、一領一正、組頭庄屋であったと考えられる。

なお、小高取や郡付浪人の身居は献金によっても得ることができたため、庄屋・組頭庄屋などの村役人や有力百姓にも与えられている。その場合、組頭庄屋であっても小高取や郡付浪人として表記されたようである。

徳島藩への献金額でいえば、1,700両程度の小高取が最も高く、次いで700両程度の郡付浪人、500両程度の一領一正と続く。ただし、献金の額が、序列（格）と比例するか否かは判然としない。

4. 郡村ごとの状況

表1～10のとおり、資料に記された名前を、郡村ごとに分け一覧表にまとめた（後掲）。資料には郡名が記載されていないため、村名から判断した。

表からわかるように、最も多くの名前が記載されている

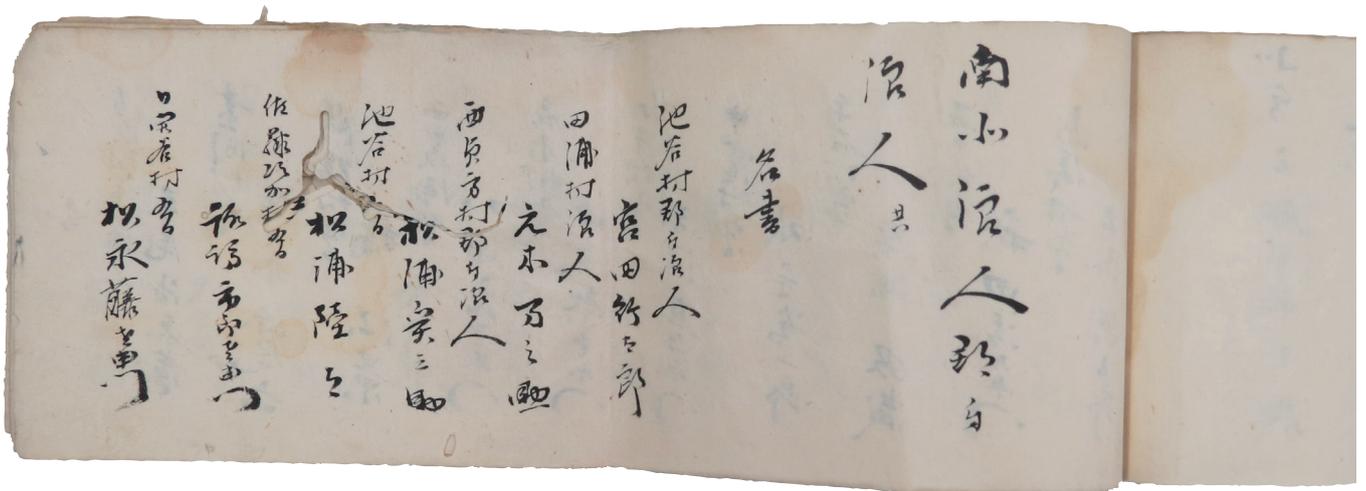


図4.「南北浪人郡付浪人共」の書き出し

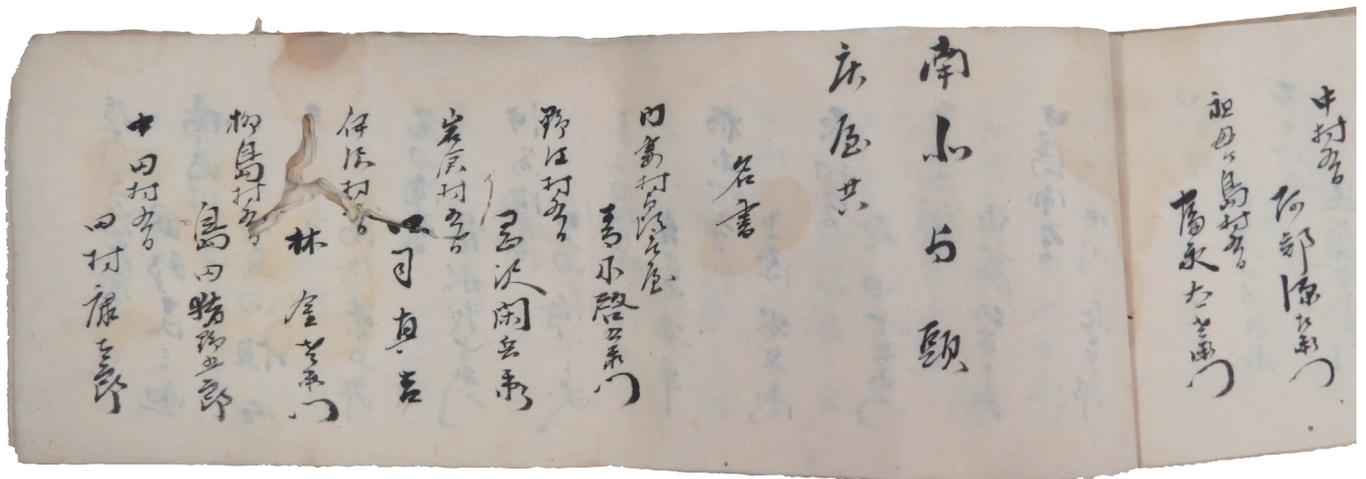


図5.「南北与頭庄屋共」の書き出し

表1. 名東郡

村名	名前	役職・身居等
一宮村	河原樟三郎	小高取
井戸村	湯浅栄五郎	組頭庄屋
沖洲浦	太田浦之丈	組頭庄屋
北新居村	伊木純之助	小高取格
佐那河内村	東條勘左衛門	小高取
佐那河内村	長尾嘉左衛門	一領一疋
下助任村	鈴江徳右衛門	組頭庄屋
芝原村	福田篤太郎	組頭庄屋
津田浦	松江島三郎	組頭庄屋
富田浦	富永茂左衛門	組頭庄屋
中村	手塚甚右衛門	小高取
中村	阿部源左衛門	郡付浪人
早淵村	後藤万兵衛	小高取格
早淵村	後藤庄助	組頭庄屋

東黒田村	長篠孫太郎	小高取
東名東村	佐藤久米太郎	組頭庄屋
矢野村	森 八太郎	郡付浪人

表2. 名西郡

村名	名前	役職・身居等
石井村	秋田清左衛門	郡付浪人
石井村	遠藤宇左衛門	郡付浪人
石井村	遠藤平兵衛	郡付浪人
石井村	林 兵右衛門	小高取格
上浦村	近久亀太郎	小高取
上浦村	近久官兵衛	一領一疋
上山村下分	大久保亀太郎	小高取
上山村下分	粟飯原源左衛門	小高取
上山村下分	粟飯原章之助	小高取源右衛門惣領

内谷村	武知武左衛門	小高取
國実村	近藤六郎助	小高取
神領村	佐々木源太郎	小高取
神領村	岸 新左衛門	小高取
神領村	佐々木近蔵	小高取源太郎惣領
神領村	岸 喜蔵	小高取新左衛門惣領
下浦村	武市増助	小高取
下浦村	武市歡太郎	小高取増助惣領
高原村	元木平次兵衛	小高取
高原村	元木佐太郎	小高取伊次兵衛惣領
天神村	武知基兵衛	小高取
天神村	武知章左衛門	小高取基兵衛惣領
中島村	片岡雅楽之助	小高取
東覚園村	大磯弥兵衛	小高取格
矢野村	盛 浅蔵	小高取

竹瀬村	木内兵右衛門	小高取
竹瀬村	木内鹿之助	小高取兵右衛門惣領
長江新田	阿部岸右衛門	小高取
長江新田	阿部猪三太	小高取岸右衛門惣領
堂浦	米田吉助	組頭庄屋
唐園村	寒川道之丞	小高取
唐園村	寒川郁太郎	小高取道之丞惣領
中島 ^(田) 里村	渡川八太郎	小高取格
中窪村	水主為一郎	郡付浪人
中窪村	多田藤左衛門	組頭庄屋
西貞方村	松浦愛之助	郡付浪人
西分村	三木新左衛門	小高取
西分村	藤居柳左衛門	小高取格
林崎浦	近藤利兵衛	小高取
林崎浦	益井吉左衛門	小高取
林崎浦	近藤利三郎	小高取利兵衛惣領
板東村	近藤兵三郎	小高取
東馬詰村	賀川盛之助	組頭庄屋
東貞方村	岡島朝之丞	小高取
東貞方村	佐藤吉兵衛	小高取格
東貞方村	佐藤助太郎	小高取格吉兵衛惣領
東中富村	犬伏基太郎	小高取
東中富村	木内孫之丞	三領一疋
檜村	矢野久太郎	組頭庄屋
平石村	廣瀬妙蔵	郡付浪人
平石村	橋本米蔵	組頭庄屋
吹田村	吉田次郎兵衛	小高取
別宮浦	森 当左衛門	小高取
本村	齋藤長之丞	組頭庄屋
松村	郡 宇太郎	郡付浪人
松村	松浦惣兵衛	小高取
松村	松浦與助	小高取
松村	郡 與兵衛	小高取格
松村	松浦永太郎	小高取惣兵衛惣領
松村	郡 富五郎	小高取格與兵衛惣領
南濱村	天羽兵右衛門	小高取格
南濱村	天羽重右衛門	小高取格兵右衛門惣領
南濱村	小川徳平	組頭庄屋
宮河内村	日根泰平	小高取
宮河内村	吉兼安平	組頭庄屋
宮島浦	坂東安左衛門	郡付浪人
宮島浦	坂東喜左衛門	小高取
宮島浦	坂東茂兵衛	小高取喜右衛門惣領
宮島浦	澤口助之丞	一領一疋
矢武村	田村佐渡次郎	小高取
矢武村	田村冠太郎	小高取佐渡次郎惣領
吉田村	和田勝太郎	小高取
吉田村	和田忠三郎	小高取勝太郎惣領

表 3. 板野郡

村名	名前	役職・身居等
池谷村	松浦陸太	郡付浪人
池谷村	宮田竹太郎	郡付浪人
大桑島村	加納達郎	組頭庄屋
大谷村	林 坦太郎	郡付浪人
大松村	近藤吉兵衛	小高取
岡崎村	田淵岡兵衛	小高取格
岡崎村	田淵徳郎	小高取格岡兵衛惣領
柿原村	三宅次郎兵衛	小高取
川端村	桑原岑蔵	小高取
川端村	安藝嘉兵衛	組頭庄屋
神宅村	安藝文左衛門	小高取格
木津野村	吉成瀬兵衛	小高取格
木津野村	吉成新平	小高取格瀬兵衛惣領
櫛木村	上原安兵衛	組頭庄屋
黒崎村	馬居七郎左衛門	小高取
笹木野村	豊田勇左衛門	小高取格
笹木野村	豊田浅五郎	小高取格勇左衛門惣領
佐藤須加村	諏訪市郎左衛門	郡付浪人
三俣村	富永唯平	小高取
三俣村	富永玄四郎	小高取唯平惣領
下六条村	三好茂理太	小高取格
勝瑞村	橘 弘景	郡付浪人
勝瑞村	岩佐膳右衛門	小高取
住吉村	山田五郎左衛門	小高取
住吉村	山田半兵衛	小高取五郎左衛門惣領
祖母ヶ島	富永太左衛門	郡付浪人
大幸村	赤澤直右衛門	郡付浪人
大幸村	福家衛門太	小高取
高磯村	土居與志郎	郡付浪人
高磯村	土居芳兵衛	郡付浪人

表 4. 麻植郡

村名	名前	役職・身居等
飯尾村	工藤吉□郎	小高取
飯尾村	工藤類助	小高取吉左衛門惣領
鴨島村	川真田六右衛門	小高取
鴨島村	川真田虎蔵	小高取六左衛門惣領
鴨島村	川真田恒太	組頭庄屋
川島町	坂東伊左衛門	郡付浪人
喜来村	中尾繁左衛門	郡付浪人
喜来村	松村百合太	小高取
児島村	大島源左衛門	小高取
児島村	大島嘉兵衛	小高取源左衛門惣領
瀬詰村	安部豊三郎	組頭庄屋
西麻植村	麻植安之平	小高取
西川田村	住友長十郎	小高取
西川田村	住友治五郎	小高取
東川田村	住友恵喜郎	小高取
東川田村	原田辰次郎	小高取
東川田村	原田土樹太郎	小高取辰次郎惣領
東川田村	原 為十郎	組頭庄屋
麻植塚村	佐藤□□郎	小高取
麻植塚村	佐藤民太郎	小高取
麻植塚村	佐藤竹太郎	小高取民太郎惣領
三ツ島村	入交賢太	小高取

表 5. 阿波郡

村名	名前	役職・身居等
粟島村	阿部亀三郎	組頭庄屋
伊澤村	伊澤孫之進	小高取
伊沢村	伊澤主馬之助	小高取孫之進惣領
伊沢村	林 金左衛門	組頭庄屋
犬墓村	松永源左衛門	小高取
大野島村	須見次郎太夫	小高取格
大野島村	須見記介	小高取格次郎太夫惣領
大俣村	井内鍋助	小高取
大俣村	井内門十郎	小高取鍋助惣領
香美村	伊澤三蔵	小高取
香美村	妹尾實太郎	小高取
香美村	伊澤覚太郎	小高取三蔵惣領
香美村	妹尾万蔵	小高取實太郎惣領
中野村	小山新平	小高取
中野村	小山元助	小高取新平惣領
日開谷村	松永藤左衛門	郡付浪人
山野上村	大野充太郎	小高取

表 6. 美馬郡

村名	名前	役職・身居等
岩倉村	郷司直吉	組頭庄屋
北庄村	柴田純三郎	組頭庄屋
郡里村	曾我部道右衛門	組頭庄屋
郡里村	曾我部宗兵衛	組頭庄屋
木屋平村	松家豊三郎	小高取格
貞光村	永井熊太	小高取
貞光村	折目伊勢蔵	小高取
貞光村	折目和太蔵	小高取格
貞光村	永井角右衛門	小高取熊太惣領
貞光村	折目卯三郎	小高取伊勢蔵惣領
貞光村	折目駒蔵	小高取格和太蔵惣領
曾江山	尾方長十郎	組頭庄屋
西端山	谷 幸三郎	一領一疋
半田村	大久保熊太	小高取
半田村	大久保為三郎	小高取熊太小家
舞中島村	住友九郎左衛門	小高取
舞中島村	住友柳太郎	小高取九郎左衛門惣領
脇町	坂東金十郎	小高取
脇町	福永岑太郎	小高取
脇町	湯浅虎兵衛	小高取格
脇町	湯浅源十郎	小高取格虎兵衛惣領
脇町	吉田武之丞	一領一疋
脇町	野崎多左衛門	組頭庄屋

表 7. 三好郡

村名	名前	役職・身居等
足代村	近藤豊太郎	小高取
足代村	秋田庫農介	小高取
池田大西町	喜多甚助	小高取格
池田村	近藤孫平	小高取
大和村	大西吉郎兵衛	組頭庄屋
加茂村	三木真蔵	一領一疋
芝生村	平尾権右衛門	小高取格
清水村	平尾佐嘉蔵	郡付浪人
白地村	三木信一郎	小高取
中加茂村	三木六左衛門	組頭庄屋
西井川村	内田夫左衛門	組頭庄屋
西山村	川人彦左衛門	小高取
東山村	大西紀惣左衛門	組頭庄屋
屋間村	佐々木弥尾六	郡付浪人
山城谷	^(大) □久保勝助	組頭庄屋

表 8. 勝浦郡

村名	名前	役職・身居等
飯谷村	竹内柳左衛門	小高取格
飯谷村	竹内亀之介	小高取格柳左衛門惣領
金磯新田	多田宗太郎	小高取
小松島浦	寺澤市兵衛	郡付浪人
小松島浦	松浦九兵衛	小高取
小松島浦	澤田覚右衛門	郡付浪人
田浦村	元木万之助	浪人
鶴岡新田	鶴岡亀三郎	小高取
中郷村	鶴羽友次郎	郡付浪人
中田村	田村康太郎	組頭庄屋
八多村	友兼照之助	小高取
傍示村	安部民之助	組頭庄屋
論田浦	佐々木傳之助	小高取

表 9. 那賀郡

村名	名前	役職・身居等
岩脇村	丹生萬右衛門	郡付浪人
大渦濱	斎藤源五郎	組頭庄屋並
加茂村	山下繁左衛門	小高取格
木頭村	湯浅重次郎	小高取
榎淵村	糸田川竹太郎	小高取
桑野村	紅露恵市	小高取
答島村	新濱膳蔵	郡付浪人
古毛村	吉田宅兵衛	組頭庄屋
才見村	幸田一郎平	組頭庄屋
^(坂之) 板野村	若槻次五右衛門	小高取
坂野村	若槻富太郎	小高取次五右衛門惣領
下福井村	森 増蔵	小高取
下福井村	森 貞太郎	小高取格
橘浦	東條宗之助	小高取
富岡町	吹田貞次郎	郡付浪人
中島浦	中川庄太郎	組頭庄屋
中庄村	児島與一郎	組頭庄屋
中山村	森 哲蔵	組頭庄屋
西納村	槇原権太兵衛	小高取
西納村	植原又三郎	小高取権太兵衛惣領
原村	原田十右衛門	組頭庄屋
古屋村	猪子五郎左衛門	小高取
南荒田野村	久米格兵衛	小高取格
南荒田野村	久米貞太夫	小高取格格兵衛惣領
南荒田野村	森 種太郎	組頭庄屋
柳島村	島田猪野五郎	組頭庄屋
和田津新田	栗本文次郎	小高取

表 10. 海部郡

村名	名前	役職・身居等
内妻村	青木啓右衛門	組頭庄屋
奥浦	志方安蔵	組頭庄屋
木岐浦	村上陸太郎	郡付浪人
木岐浦	濱名喜四郎	郡付浪人
北河内村	八田喜久郎	組頭庄屋
穴喰浦	田井久左衛門	郡付浪人
穴喰浦	百々伊之丞	小高取格
穴喰村	多田本左衛門	小高取格
中村	中西芳太	組頭庄屋
西由岐浦	八田庄左衛門	郡付浪人
野江村	岡沢閑兵衛	組頭庄屋
日和佐浦	湯浅藤兵衛	郡付浪人

のは板野郡である。特に小高取や小高取格、郡付浪人の多さは群を抜いている。「旧高旧領取調帳」によると、板野郡の村数は浦を含めると 134 村であり、他の郡と比較すると村数は多い方である。ただし、那賀郡の 149 村のように、板野郡よりも村数が多い郡も存在している。

江戸時代中後期になると、小高取や郡付浪人などの身居は、藩への献金によって得ることができるようになったことから、板野郡の小高取や郡付浪人の数の多さは、あるいは郡内の富の蓄積および献金と比例しているのかもしれない。板野郡は阿波国内でも有数の藍作地帯として栄え、藩領の地域経済を支えていた。

おわりに

以上、原田家文書「南北小高取 同格 三領壱疋 壱領壱疋 浪人 郡付浪人 与頭庄屋名簿」について簡単な解説を加えた。最後に、組頭庄屋に関する先行研究と資料の意義についてふれておきたい。

徳島藩における組頭庄屋に関する本格的な研究は、高橋啓の研究が嚆矢であるといつてよい。高橋は、組頭庄屋が多様な任務を担いながらも藩と村落の中間支配機構として機能したこと、組頭庄屋が持つ内済・調停能力によって近世中後期の村落の秩序が維持されたこと、組頭庄屋という制度に依拠した村落支配体制が展開したことなどを指摘した(高橋, 1988)。

また、阿佐浩道は名東郡早瀬村の組頭庄屋である後藤家を通して、組村数の変化と組頭庄屋の任免、訴訟処理能力の高さについて明示した。さらに、近世後期における組頭庄屋は庄屋を兼任する必要性は弱く、組頭庄屋が組内庄屋

の「惣代」であるという性格は希薄であったと指摘した(阿佐, 2005).

近年では, 名西郡神領村の組頭庄屋である岸家に焦点を当てた鈴木淳世の研究が注目される. 鈴木は, 組頭庄屋の思想や行動について検討を加え, 組頭庄屋が騒動の再発防止と農村の復興のために儒学的思想に基づいて風俗統制を行ったと指摘した(鈴木, 2020).

その他, 徳島県立文書館編(2021)では, 板野郡住吉村(現, 藍住町住吉)の組頭庄屋である山田家を題材に, 組頭庄屋が治水事業を主導していたことや藩撰地誌「阿波志」編集のための準備作業を行ったことなどが明かにされている.

なお, 阿波国名東郡の組頭庄屋については, 阿佐(2005)によって一覧にまとめられたが, 他の郡については管見の限り明かにされていない. 本資料は, 組頭庄屋のみならず, 小高取や一領一疋, 郡付浪人についての情報も有している. その意味で, 当該文書を翻刻・紹介する意義はあるだろう. 引き続き, 調査研究を深めていきたい.

翻 刻

(凡例)

1. 資料中の文字については, 旧字は新字にしたが, 地名と人名の一部は原文の通りとした. なお, 誤記と思われる箇所はそのまま記し, 傍注で補足した.
2. 翻刻者による註記は()に入れ, 傍注とした. なお, (1オ)は横帳1丁の表, (2ウ)は2丁の裏の意である.
3. 虫損箇所は□とした.

^(表紙)
「南北小高取 同格 三領壱疋 壱領壱疋
浪人 郡付浪人 与頭庄屋 名簿」

^(1オ)
南北小高取同格并惣領共

名書

佐那河内村小高取
東條勘左衛門
中野村右同
小山新平
東川田村右同
住友恵喜郎
唐園村右同
寒川道之丞
川端村右同
桑原岑蔵
貞光村右同

永井熊太
^(1ウ)
西分村小高取
三木新左衛門
上山村下分右同
大久保亀太郎
矢野村右同
盛 浅蔵
神領村右同
佐々木源太郎
大俣村右同
井内鍋助
白地村右同
三木信一郎
犬墓村右同
松永源左衛門
香美村右同
妹尾實太郎
國実村右同
近藤六郎助
上浦村右同
近久亀太郎
^(2オ)
鴨島村右同
川真田六右衛門
伊澤村右同
伊澤孫之進
麻植塚村右同
佐藤□□郎
同村右同
佐藤民太郎
香美村右同
伊澤三蔵
中島村右同
片岡雅楽之助
柿原村右同
三宅次郎兵衛
下浦村右同
武市増助
貞光村右同
折目伊勢蔵
吹田村右同
吉田次郎兵衛
^(2ウ)
池田村小高取
近藤孫平
矢武村右同
田村佐渡次郎

神領村右同	山田五郎左衛門
岸 新左衛門	三ツ島村右同
飯尾村右同	入交賢太
工藤吉□郎	喜来村右同
西麻植村右同	松村百合太
麻植安之平	山野上村右同
松村右同	大野充太郎
松浦惣兵衛	西川田村右同
東貞方村右同	住友長十郎
岡島朝之丞	宮島浦右同
足代村右同	坂東喜左衛門
近藤豊太郎	^(4オ) 内谷村右同
同村右同	武知武左衛門
秋田庫農介	西川田村右同
黒崎村右同	住友治五郎
馬居七郎左衛門	上山村下分右同
^(3オ) 橘浦右同	粟飯原源左衛門
東條宗之助	別宮浦右同
八多村右同	森 当左衛門
友兼照之助	一宮村右同
脇町右同	河原樟三郎
坂東金十郎	東中富村右同
同町右同	犬伏基太郎
福永岑太郎	木頭村右同
勝瑞村右同	湯浅重次郎
岩佐膳右衛門	西納村右同
下福井村右同	楨原権太兵衛
森 増蔵	舞中島村右同
櫛渕村右同	住友九郎左衛門
糸田川竹太郎	西山村右同
金礪新田右同	川人彦左衛門
多田宗太郎	^(4ウ) 高原村小高取
論田浦右同	元木平次兵衛
佐々木傳之助	東黒田村右同
林崎浦右同	長篠孫太郎
近藤利兵衛	三俣村右同
^(3ウ) 小松島浦小高取	富永唯平
松浦九兵衛	松村右同
板東村右同	松浦與助
近藤兵三郎	竹瀬村右同
大幸村右同	木内兵右衛門
福家衛門太	半田村右同
大松村右同	大久保熊太
近藤吉兵衛	和田津新田右同
住吉村右同	栗本文次郎

古屋村右同
 猪子五郎左衛門
 吉田村右同
 和田勝太郎
 (坂カ) 板野村右同
 若槻次五右衛門
 (5オ) 中村右同
 手塚甚右衛門
 天神村右同
 武知基兵衛
 林崎浦右同
 益井吉左衛門
 東川田村右同
 原田辰次郎
 桑野村右同
 紅露恵市
 宮河内村右同
 日根泰平
 長江新田右同
 阿部岸右衛門
 兄島村右同
 大島源左衛門
 鶴岡新田右同
 鶴岡亀三郎
 木屋平村右同格
 松家豊三郎
 (5ウ) 松村小高取格
 郡 與兵衛
 下六條村右同
 三好茂理太
 神宅村右同
 安藝文左衛門
 (田カ) 中島里村右同
 渡川八太郎
 芝生村右同
 平尾権右衛門
 加茂村右同
 山下繁左衛門
 穴喰浦右同
 百々伊之丞
 西分村右同
 藤居柳左衛門
 石井村右同
 林 兵右衛門
 木津野村右同

 吉成瀬兵衛
 (6オ) 貞光村右同
 折目和太蔵
 早渕村右同
 後藤万兵衛
 穴喰村右同
 多田本左衛門
 池田大西町右同
 喜多甚助
 北新居村右同
 伊木純之助
 東貞方村右同
 佐藤吉兵衛
 南荒田野村右同
 久米格兵衛
 笹木野村右同
 豊田勇左衛門
 脇町右同
 湯浅虎兵衛
 下福井村右同
 森 貞太郎
 (6ウ) 大野島村小高取格
 須見次郎太夫
 東覚圓村右同
 大儀弥兵衛
 岡崎村右同
 田渕岡兵衛
 南濱村右同
 天羽兵右衛門
 飯谷村右同
 竹内柳左衛門
 中野村小高取新平惣領
 小山元助
 唐園村右同道之丞右同
 寒川郁太郎
 貞光村右同熊太右同
 永井角右衛門
 神領村右同源太郎右同
 佐々木近蔵
 大俣村右同鍋助右同
 井内門十郎
 (7オ) 香美村右同貫太郎右同
 妹尾万蔵
 鴨島村右同六左衛門右同
 川真田虎蔵

伊沢村右同孫之進右同	阿部猪三太
伊澤主馬之助	兎島村右同源左衛門右同
麻植塚村右同民太郎右同	大島嘉兵衛
佐藤竹太郎	松村右同格與兵衛右同
香美村右同三藏右同	郡 富五郎
伊澤覺太郎	木津野村右同瀬兵衛右同
貞光村右同伊勢藏右同	吉成新平
折目卯三郎	貞光村右同和太藏右同
矢武村右同佐渡次郎右同	折目駒藏
田村冠太郎	東貞方村右同吉兵衛右同
神領村右同新左衛門右同	佐藤助太郎
岸 喜藏	^(8ウ) 南荒田野村小高取格格兵衛惣領
飯尾村右同吉左衛門右同	久米貞太夫
工藤類助	笹木野村右同勇左衛門右同
下浦村右同増助右同	豊田浅五郎
武市歎太郎	脇町右同厩兵衛右同
^(7ウ) 松村小高取惣兵衛惣領	湯浅源十郎
松浦永太郎	大野島村右同次郎太夫右同
林崎浦右同利兵衛右同	須見記介
近藤利三郎	岡崎村右同岡兵衛右同
住吉村右同五郎左衛門右同	田渕徳郎
山田半兵衛	南濱村右同兵右衛門右同
宮島浦右同喜右衛門右同	天羽重右衛門
坂東茂兵衛	飯谷村右同柳左衛門右同
上山村下分右同源右衛門右同	竹内亀之介
粟飯原章之助	半田村小高取熊太小家
西納村右同権太兵衛右同	大久保為三郎
植原又三郎	以上
舞中島村右同九郎左衛門右同	^(9オ) 北方三領壺疋壺領壺疋共
住友柳太郎	
高原村右同伊次兵衛右同	名書
元木佐太郎	西端山壺領壺疋
三俣村右同唯平右同	谷 幸三郎
富永玄四郎	東中富村三領壺疋
竹瀬村右同兵右衛門右同	木内孫之丞
木内鹿之助	加茂村壺領壺疋
^(8オ) 吉田村右同勝太郎右同	三木真藏
和田忠三郎	上浦村右同
坂野村右同次五右衛門右同	近久官兵衛
若槻富太郎	佐那河内村右同
天神村右同基兵衛右同	長尾嘉左衛門
武知章左衛門	脇町右同
東川田村右同辰次郎右同	吉田武之丞
原田土樹太郎	^(9ウ) 宮島浦右同
長江新田右同岸右衛門右同	

澤口助之丞
以上

^(10オ)
南北浪人郡付浪人共

名書
池谷村郡付浪人
宮田竹太郎
田浦村浪人
元木万之助
西貞方村郡付浪人
松浦愛之助
池谷村右同
松浦陸太
佐藤須加村右同
諏訪市郎左衛門
日開谷村右同
松永藤左衛門
^(10ウ)
清水村郡付浪人
平尾佐嘉蔵
昼間村右同
佐々木弥尾六
勝瑞村右同
橘 弘景
西由岐浦右同
八田庄左衛門
喜来村右同
中尾繁左衛門
大幸村右同
赤澤直右衛門
中窪村右同
水主為一郎
平石村右同
廣瀬妙蔵
石井村右同
秋田清左衛門
高磯村右同
土居與志郎
^(11オ)
同村右同
土居芳兵衛
石井村右同
遠藤宇左衛門
同村右同
遠藤平兵衛
矢野村右同

森 八太郎
答島村右同
新濱膳蔵
富岡町右同
吹田貞次郎
大谷村右同
林 坦太郎
小松島浦右同
寺澤市兵衛
穴喰浦右同
田井久左衛門
日和佐浦右同
湯浅藤兵衛
^(11ウ)
木岐浦郡付浪人
村上陸太郎
同浦右同
濱名喜四郎
松村右同
郡 宇太郎
川島町右同
坂東伊左衛門
岩脇村右同
丹生萬右衛門
宮島浦右同
坂東安左衛門
中郷村右同
鶴羽友次郎
小松島村右同
澤田覚右衛門
中村右同
阿部源左衛門
祖母ヶ島村右同
富永太左衛門
^(12オ)
南北与頭庄屋共
名書
内妻村与頭庄屋
青木啓右衛門
野江村右同
岡沢閑兵衛
岩倉村右同
郷司直吉
伊沢村右同
林 金左衛門

柳島村右同	矢野久太郎
島田猪野五郎	早瀬村右同
中田村右同	後藤庄助
田村康太郎	芝原村右同
^(12ツ) 傍示村与頭庄屋	福田篤太郎
安部民之助	津田浦右同
鴨島村右同	松江島三郎
川真田恒太	中山村右同
井戸村右同	森 哲藏
湯浅栄五郎	瀬詰村右同
富田浦右同	安部豊三郎
富永茂左衛門	曾江山右同
沖洲浦右同	尾方長十郎
太田浦之丈	中村右同
宮河内村右同	中西芳太
吉兼安平	中加茂村右同
櫛木村右同	三木六左衛門
上原安兵衛	東山村右同
原村右同	大西紀惣左衛門
原田十右衛門	^(14オ) 才見村右同
東名東村右同	幸田一郎平
佐藤久米太郎	奥浦右同
中島浦右同	志方安藏
中川庄太郎	南荒田野村右同
^(13オ) 古毛村右同	森 種太郎
吉田宅兵衛	中庄村右同
脇町右同	児島與一郎
野崎多左衛門	北河内村右同
本村右同	八田喜久郎
齋藤長之丞	川端村右同
東馬詰村右同	安藝嘉兵衛
賀川盛之助	平石村右同
粟島村右同	橋本米藏
阿部亀三郎	北庄村右同
大桑島村右同	柴田純三郎
加納達郎	堂浦右同
東川田村右同	米田吉助
原 為十郎	西井川村右同
郡里村右同	内田夫左衛門
曾我部宗兵衛	^(14ツ) 南濱村与頭庄屋
同村右同	小川徳平
曾我部道右衛門	山城谷右同
中窪村右同	^(大カ) □久保勝助
多田藤左衛門	大利村右同
^(13ツ) 檜村与頭庄屋	大西吉郎兵衛

下助任村右同
鈴江徳右衛門
大瀨濱与頭庄屋並
齋藤源五郎
以上

引用文献

- 阿佐浩道. 2005. 徳島藩の組頭庄屋—後藤家文書をてがかりに—. 鳴門史学会編, 鳴門史学, (19) :67-86.
- 平凡社地方資料センター編. 2000. 日本歴史地名大系第37巻 徳島県の地名. 267p. 平凡社, 東京.
- 池田町史編纂委員会編. 1983. 池田町史 上巻. 1084p. 徳島県三好郡池田町, 徳島.
- 市場町史編纂委員会編. 1996. 市場町史. 1440p. 水田文夫, 徳島.
- 木村 礎校訂. 1978. 旧高旧領取調帳 中国・四国編. 366p. 近藤出版社, 東京.
- 鈴木淳世. 2020. 徳島藩組頭庄屋の風俗統制: 岸新左衛門有秀の場合. 小酒井大悟・渡辺尚志編, 近世村の生活史 阿波・淡路の村と人, p.198-232. 清文堂出版, 大阪.
- 高田豊輝編. 2001. 阿波近世用語辞典. 468p. 高田豊輝(私家版), 徳島.
- 高橋 啓. 2000 (初出 1988). 近世藩領社会の展開. 360p. 溪水社, 広島.
- 徳島県立文書館編. 2000. 第20回資料紹介展 阿波の古文書パート1 棟付帳. 8p. 徳島県立文書館, 徳島.
- 徳島県立文書館編. 2021. 第63回企画展「住吉村組頭庄屋山田家と吉野川」. 8p. 徳島県立文書館, 徳島.
- 山川町史編集委員会編. 1987. 改訂 山川町史. 1152p. 改訂山川町史刊行会, 徳島.